

# オートウインドウキット取付説明書(Ver1.1)

090303

この度は、オートウインドウキットをご購入いただき、有難うございました。取付前に本説明書を熟読いただき、正しく取り付けて下さい。

**取り付けはすべて自己責任でお願いします。当方はいかなる場合も一切責を負いません。**  
**プラスコントロール車とマイナスコントロール車で配線が違いますので、確認してから配線してください。**  
**車両に接続する前に必ず裏面の検査方法の検査を行って、配線が正しいか確かめてください。**

**基本キット製品構成** ・コントローラー(黄4) 1個 ・ヒューズ付き専用ハーネス 1セット

## 配線方法1(プラスコントロール車 ウインドウモーターを+12Vで動作させる車)

ケーブル線色	説明と主な接続先
黒	ボディアースへ接続。
赤	電流が20A以上可能な常時電源の+へ接続。
青	ウインドウモーターのアップ線をカットしたうち、スイッチ側へ接続。
緑	ウインドウモーターのアップ線をカットしたうち、モーター側へ接続。
紫	本キットの 赤線のヒューズの前へ接続。
青/白	ウインドウモーターのダウン線をカットしたうち、スイッチ側へ接続。
緑/白	ウインドウモーターのダウン線をカットしたうち、モーター側へ接続。
紫/白	本キットの 赤線のヒューズの前へ接続。
茶	本キットの 青線へ接続。
灰	本キットの 青/白線へ接続。
黄	ドア開閉スイッチ(ドア開でアース)へ接続。 ドアを開けたときに少し下がり、ドアを閉めたときに元に戻ります。
注意事項	接続しないコードは、必ずテープ等で絶縁してください。

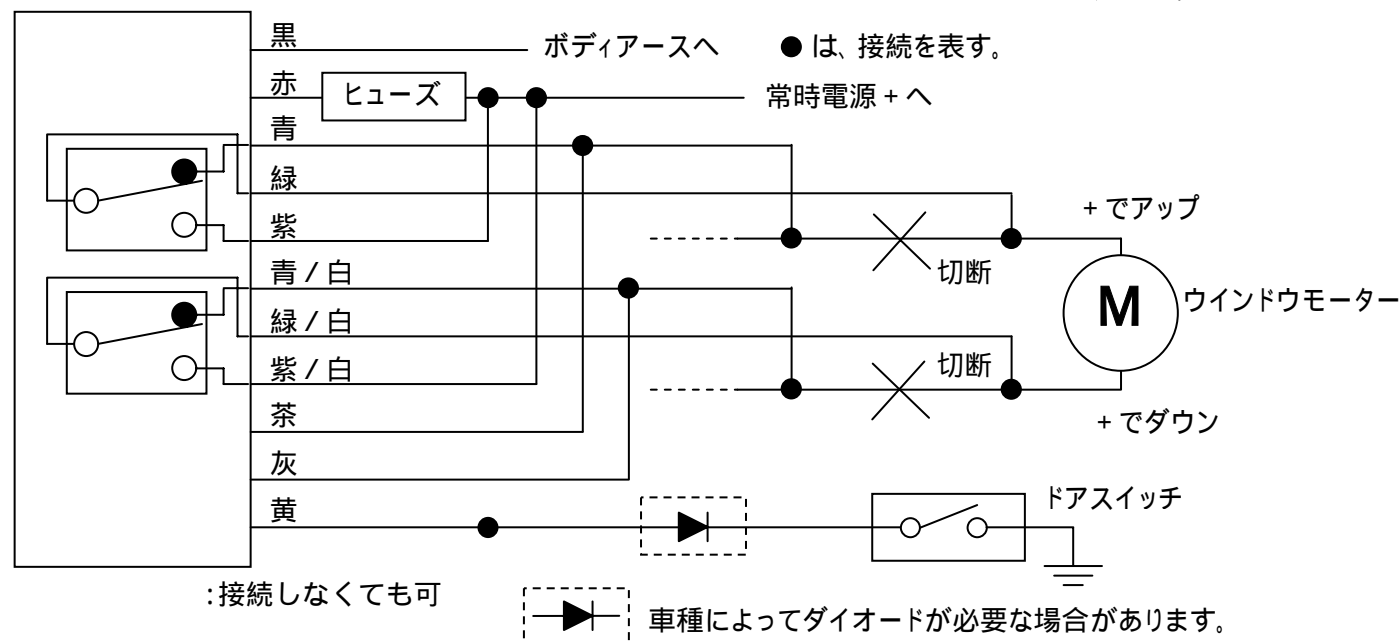
: 接続しなくても可

基板内ジャンパー設定について。(ジャンパー設定をするときは、基板の回路をショートしないようにしてください。)

JP1:ジャンパーターミナル(黒い樹脂)を付けて使用します。(出荷時の設定)

## 基本結線図1(プラスコントロール車 ウインドウモーターを+12Vで動作させる車)

配線するときは必ず11ピンのコネクタを抜いて作業してください。



## オートウインドウキット検査方法1(プラスコントロール車 ウインドウモーターを+12Vで動作させる車)

車両に接続する前に必ず以下の検査を行って、配線が正しいか確かめてください。

配線完了後、コントローラーを接続する前に必ず以下の手順で配線を確認してください。

**この配線検査を行わずにコネクタを挿すと、コントローラーが破損したり車両が壊れます。**

必ず1番から6番まで、順番に飛ばさずに確認してください。途中、正常でない場合は、次に進まずに配線を直してから次に進んでください。(検査を始めるときは、窓は全閉状態にして下さい。)

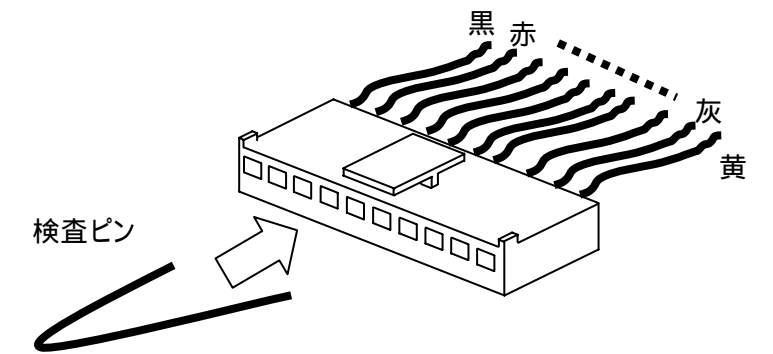
手順以外の差込は破損の元になりますので、絶対にしないように注意してください。

2本の検査ピンは絶対にショートさせないで下さい。

順序	検査方法	車両の動作	異常の場合の不良原因
1	青と緑に1本の検査ピンを差し込み、青/白と緑/白に別の検査ピンを差し込み、純正のスイッチを操作。	通常のウインドウ動作	青、緑、青/白または緑/白線の結線不良
2	青と緑に検査ピンを差し込んだまま、赤と緑/白に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウインドウが下がる	赤または緑/白線の結線不良
3	青/白と緑/白に検査ピンを差し込んだまま、赤と緑に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウインドウが上がる	緑線の結線不良
4	茶と緑に検査ピンを差し込んだまま、紫/白と緑/白に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウインドウが下がる	茶または紫/白線の結線不良
5	灰と緑/白に検査ピンを差し込んだまま、紫と緑に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウインドウが上がる	灰または紫線の結線不良
6	コントローラーを接続し、動作させる。	オートウインドウ動作	黒線の結線不良 またはコントローラーの初期不良

検査ピン

検査ピンは、書類を留める金属のクリップを2本御用意いただき、伸ばしてV字に曲げて製作してください。



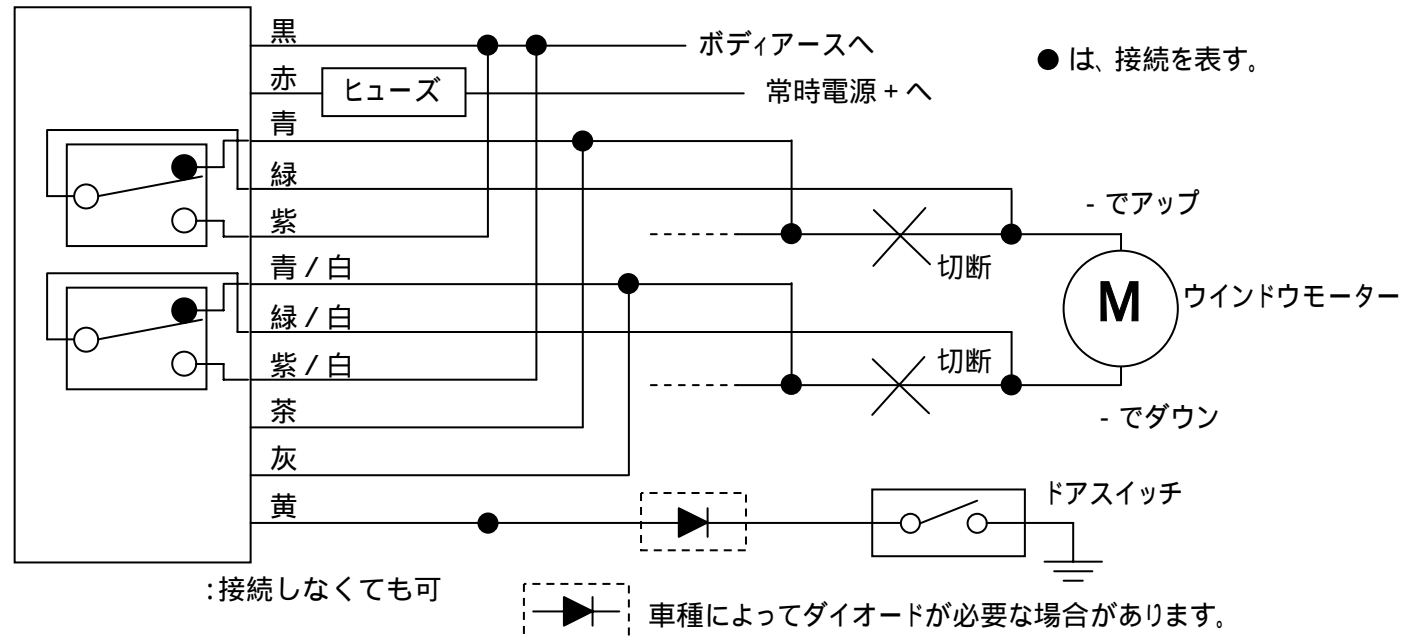
**配線方法2 (マイナスコントロール車)** ウィンドウモーターを - (0V) で動作させる車、例 1990 年代のベンツ等)

ケーブル線色	説明と主な接続先
黒	ボディアースへ接続。
赤	常時電源の + へ接続。
青	ウィンドウモーターのアップ線をカットしたうち、スイッチ側へ接続。
緑	ウィンドウモーターのアップ線をカットしたうち、モーター側へ接続。
紫	本キットの 黒線へ接続。
青 / 白	ウィンドウモーターのダウン線をカットしたうち、スイッチ側へ接続。
緑 / 白	ウィンドウモーターのダウン線をカットしたうち、モーター側へ接続。
紫 / 白	本キットの 黒線へ接続。
茶	本キットの 青線へ接続。
灰	本キットの 青 / 白線へ接続。
黄	ドア開閉スイッチ (ドア開でアース) へ接続。 ドアを開けたときに少し下がり、ドアを閉めたときに元に戻ります。(車種によっては不可。)
注意事項	接続しないコードは、必ずテープ等で絶縁してください。

: 接続しなくても可  
基板内ジャンパー設定について。(ジャンパー設定をするときは、基板の回路をショートしないようにしてください。)  
JP1: ジャンパーターミナル(黒い樹脂)を外して使用します。

**基本結線図2 (マイナスコントロール車)** ウィンドウモーターを - (0V) で動作させる車)

配線するときは必ず11ピンのコネクタを抜いて作業してください。



**オートウィンドウキット検査方法2 (マイナスコントロール車)** ウィンドウモーターを - (0V) で動作させる車)

車両に接続する前に必ず以下の検査を行って、配線が正しいか確かめてください。  
配線完了後、コントローラーを接続する前に必ず以下の手順で配線を確認してください。  
**この配線検査を行わずにコネクタを挿すと、コントローラーが破損したり車両が壊れます。**

必ず1番から6番まで、順番に飛ばさずに確認してください。途中、正常でない場合は、次に進まずに配線を直してから次に進んでください。(検査を始めるときは、窓は全閉状態にして下さい。)

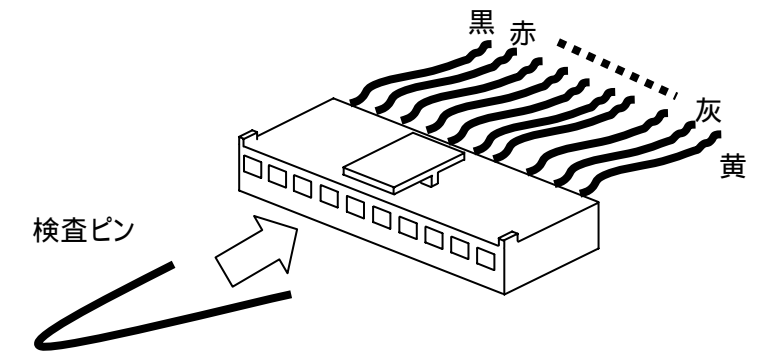
手順以外の差込は破損の元になりますので、絶対にしないように注意してください。

2本の検査ピンは絶対にショートさせないで下さい。

順序	検査方法	車両の動作	異常の場合の不良原因
1	青と緑に1本の検査ピンを差し込み、青/白と緑/白に別の検査ピンを差し込み、純正のスイッチを操作。	通常のウィンドウ動作	青、緑、青/白または緑/白線の結線不良
2	青と緑に検査ピンを差し込んだまま、黒と緑/白に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウィンドウが下がる	黒または緑/白線の結線不良
3	青/白と緑/白に検査ピンを差し込んだまま、黒と緑に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウィンドウが上がる	緑線の結線不良
4	茶と緑に検査ピンを差し込んだまま、紫/白と緑/白に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウィンドウが下がる	茶または紫/白線の結線不良
5	灰と緑/白に検査ピンを差し込んだまま、紫と緑に別の検査ピンを差し込む。	差し込んでいる間、ウィンドウが上がる	灰または紫線の結線不良
6	コントローラーを接続し、動作させる。	オートウィンドウ動作	赤線の結線不良 またはコントローラーの初期不良

検査ピン

検査ピンは、書類を留める金属のクリップを2本御用意いただき、伸ばしてV字に曲げて製作してください。



**動作時間設定方法 (共通)** (バッテリー交換やコントローラーのコネクタを抜いた場合、再学習が必要です。)

本商品は、電源 ON 時にウィンドウの動作時間を学習します。

1. ウィンドウが全開の状態のコネクタを挿す。
2. 2秒後にウィンドウが少し上がるのを確認後、純正スイッチでウィンドウを全閉状態にする。
3. 本体からカチッとリレーの音がすれば学習終了です。

学習操作を行わなかった場合は、5秒に設定されます。